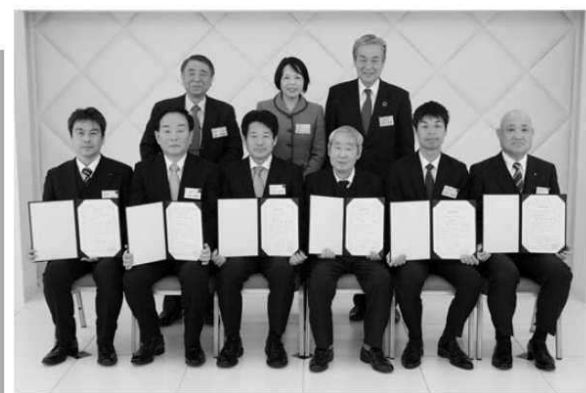


2018年度経営者「環境力」大賞

大賞受賞者喜びの声



栄えある大賞に輝いた6人の受賞者たち

ユニークな環境経営発掘

環境文明21「日刊工業新聞社は、2月22日、東京都渋谷区の青雲会館アイビーホールで、2018年度経営者「環境力」大賞の頭彰式および発表会を行った。今回は十数人の応募の中から「環境力」あふれるユニークな経営を行う6人が大賞を受賞した。協賛は西武信用金庫、損保ジャパン日本興亜環境財団、武州工業、リマテックホールディングス。

環境文明21はこれまた。環境力を「環境で、高い環境力を持つ 境」の現実と未来とを中堅・中小企業経営 科学に基づいてしつかりの発掘を手がけてきりと見つけ、対応戦略

発表された。各受賞者からは「地域社会との交流と啓発活動」「環境やヒトにやさしい製品づくり」「製品ロス削減」「コストの削減」「リノベーションを通じた職場環境の改善」など、エピソードを交え「社会的責任」の自覚た話が語られた。

藤村コノエ代表は閉会あいさつで「日本の総企業数の約99%を占める中堅・中小企業の経営努力が、日本における環境への取り組みの中心となり、今後の日本を変える原動力となると確信している。これまでの多くの受賞者を浸透させる情熱と達成する戦略性」「情を早くから認識して、報を公開し、公正な競争に率先して取り組む地道な努力を続けている」と語った。

環境文明21と日刊工業新聞社は、今後とも「環境力」あふれる経営者を発掘し、経歴と実績を広く社会に情報発信していく。



ユニパック 社長 松江 昭彦氏

このたびは18年度経営者「環境力」大賞を拝受し、心よりお礼申し上げます。わが国では半世紀にわたり、ビル用高性能フィルターの使い捨てが常識とされてきました。当社は「もったいない」の心から4回使用可能な洗浄再利用フィルターを世に出し、約10年、東京ミッドタウン、羽田空港、中部国際空港などの国内主要施設に納入して参りました。

現在、SDGsの達成に向けて、世界が取り組んでいる潮流の中で、フィルター1の製造から廃棄に至る二酸化炭素(CO2)排出量が自分の1とよめる「低炭素フィルター」は新たな価値を持つことになり、洗浄再利用フィルターが再び評価される時代に入りました。ビル事業者の自社排出CO2を具体的に削減する方法として、パリ協定の2030年目標の達成を目指し、広く社会に貢献して参る決意です。

今回の受賞企業の自己評価点の中で高かった項目は「国内外の時代の潮流を洞察し、先取りする力」「働くことの価値を認め、自社で働く全ての人々の働く意欲を高める力」だった。本年度受賞者の平均年齢は56・7歳。環境文明21は、地球温暖化などへの対応が重大な課題となる「環境の世紀」において、企業が社会と共生しながら持続可能な経営を行うために、全ての企業関係者が経済と環境との一体化を目指して努力することが必要と考える。

頭彰式後、受賞者による「私の環境力」が

SDGs(持続可能な開発目標)対応

洗浄再生フィルタで
炭素量を50%削減

涼風

- プレフィルタ不要(人手不足対応)
- 洗浄再利用(新品1回+洗浄3回使用可)
- 低圧損による節電
- サーマルリサイクル

【空気搬送動力の大幅削減】

COP21(温室効果ガス削減)の新技术

UNIPAC

東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル5階

ひらめきを人と社会へ。 URL <http://www.unipac.co.jp>